

げて来た、相對性だとか原理だとか茶漬にもならないのだ。

彼奴は日本の國が美しいとか、人も家も小さくて可愛いとか、イ、キになつてホザイてゐる。

脈々たる火山脈の脈動は、空氣の味も解らない野郎にはわかんねえいのだ。

思ひきり好くくしやみをして、福原遊廊へでも行きたい野郎は行け』

新吉は矢立を振りかざして野次に應酬した。

『此んな有様でトボケ面をして饒舌るアインシュタインの傍らに、石原純とかタケノコとか、紋付袴の日本人が通辯をやる』

ゼスチュアはよろしかつた。

『アガンボジョー。』

相對性原理で、安心立命を得た奴が一人でもあるか』新吉は怒つた。

『アの野郎は今頃太平洋の浪の上の船の上に晝ねでもしてゐる筈だ。

俺が眞言秘密の呪文を唱ふれば、船は藻屑となり、アの野郎を海底の魚腹に葬る事はたやすい。

新聞記事で見ると下關で赤鉢巻までして餅をつく眞似をした。